

天念寺

古くからある木造の寺である天念寺は、文字通り岸壁の表面に建てられたものを意味します。平安時代（794 年～1185 年）に建立された後何百年間もの間、天念寺は悟りを得るために苦行を行う仏教僧のための厳しい修行、修験道を中心でした。彼らが修行に使った道は国東半島の丘や谷を縦横に走っており、ハイカーや巡礼者に人気となっています。この寺（左手）は神道の神社（右手の鳥居の後ろ）と共有の場所にあり、この時代に仏教と神道が共存していたことを示す例となっています。旧暦の 7 日（通常 2 月）に行われる、修正鬼会と呼ばれる伝統的な祭りは、2 つの宗教が時に場所以上のものを共有していたことを示しています。活気溢れるこの祭りのメインイベントでは、面を被った 2 体の鬼（古代日本の怪物）が踊り、松明を振りかざし、参加者に火の粉を浴びせます。見た目は怖い鬼ですが、実際は仏が姿を変えた存在とされ、火の粉に触れた者の厄を払い幸運や繁栄をもたらすとして歓迎されています。